

組織培養によるフキ優良系統の選抜

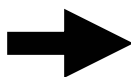
【背景・目的・成果】

淡路島のフキは昭和28年頃より栽培が始まった歴史のある産地ですが、ウイルスの汚染により生産力が低下してきました。

そこで、フキの茎頂培養等を行ってウイルスフリー苗の作出・増殖法を検討するとともに、生産者組織に培養苗を配布し、培養苗系統間での生産力等の調査を現地で行い、優良系統を選抜しました。



茎頂培養し、さらに培養で増殖しました



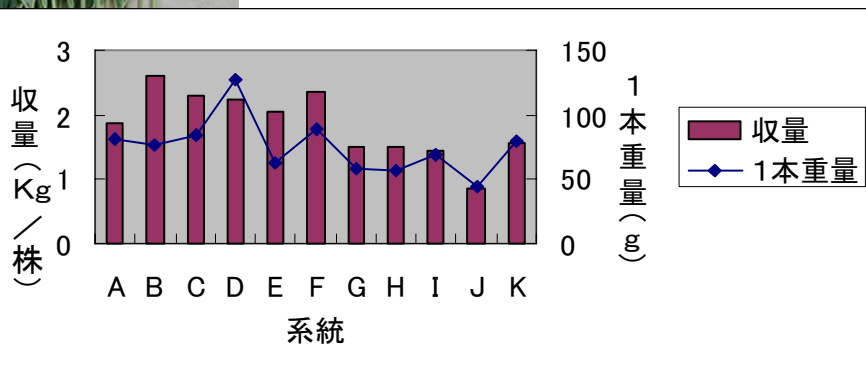
現地の隔離施設(共同育苗施設)に植え付けました



主に収量性のすぐれた系統(B、C、D、F)を選抜しました



個体ごとに収量や葉柄長、分枝数などを調査しました



【技術の活用】

これまで、収量や葉柄長の向上を目標に有望な4系統を選抜し、現地の生産者団体にお渡ししました。今後、一般の生産圃場での栽培試験を行って、形質の安定性を確認するとともに、萌芽率や葉柄の着色程度などを調査します。

同時に、母株がウイルス病に再感染することのないように、ウイルスを媒介するアブラムシの防除など、維持管理にも注意する必要があります。